

(別紙)

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名	長崎県立長崎東中学校	
生徒数	110名	
各教科の状況		
国語	概況 改善策	平均正答率は89%と全国・県の正答率を大きく上回っている。スピーチに関する問いは、日頃の学習活動の経験に基づき解答できている。文学的文章の登場人物の心情を読み取る問題も比較的できていた。一方、問題の事象を己の知識のみで考え、問題の本質を読みとる問題と、資料を基にして表現する問題の正答率が低かった。改善策として、問題文を的確に読み取る問題について教科書教材等を用いた演習を行う。また、データを踏まえた文章を読んだり、データを文章化する活動等を通して、データを読む力ならびに書く力を伸ばしていく。
数学	概況 改善策	平均正答率は84.0%と全国・県の正答率を大きく上回っている。図形およびデータの活用において、他の領域と比較すると低い傾向が見られた。特に、データの活用の領域が顕著で、「処理」よりもその後の「分析」の面で根拠を示しながら、自らの言葉で説明する力が不足している。改善策としては、「分析」という観点において、根拠となるものの示し方、なぜこのように考えるのかを指導するとともに、自らが考察したものを表現できるようにしていく。
理科	概況 改善策	平均正答率は73%と全国・県の正答率を大きく上回っている。生物・化学の正答率が高いのに対して、地学・物理での正答率が低い。記述式の問題や実験結果から適切な考察を行えるかを問う問題の正答率は高く、科学的思考はある程度身につけていると思われる。改善策として今後も、日常生活と学習内容との関連付けや、必要な実験を考えさせるような機会を増やしていく。
質問紙調査の状況	自分には良いところがあると回答している生徒が、昨年より14%上昇し85%以上である。反面、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒が66%である。 学校でのICT機器の活用は、県や全国平均よりも高く、学習に役立っていると回答した生徒も95%を超えている。一人一台端末の活用法や指導法の研究を今後も継続していく。	

(別紙)

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名	長崎県立佐世保北中学校	
生 徒 数	120名	
各 教 科 の 状 況		
国 語	概 況	平均正答率は86%であった。「知識及び技能(2)情報の扱いに関する事項」・「思考力・判断力・表現力等 B 書くこと」の項目で52.2%と正答率が低い。誤答は「解答類型3」がほとんどで、条件をよく読んでいないことが原因と考えられる。
	改善策	今後は、多くの問題に触れ、問題に取り組む姿勢を育てていきたい。また、文章の書き方や文法事項の基礎力を定着させ、自分の考えを適切な言葉で表現する力を育成していく必要がある。
数 学	概 況	平均正答率は79%(県平均48%)であった。知識・技能を問う問題の正答率は84.9%(県平均56.3%)。思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率は68.7%(県平均33.7%)。今後は、文章をしっかりと読んで思考する力や、いくつかの情報を適切に読み取り判断する力と、それを解答に数学的に表現していく力を育成していく必要がある。
	改善策	
理 科	概 況	平均正答率は67%であった。県や全国の結果の得点分布と見比べて、本校生に特定の学習指導の領域や評価の領域に弱点が存在する訳ではないことが分かる。既習領域を忘れていたり、長文や対話文の問題形式に慣れていなかったりした点が挙げられる。改善策として、授業や課題を通して中学校学習内容の総復習及び、長文の問題形式に対応する力を養う必要がある。
	改善策	
質問紙調査の状況	「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に、「思う、どちらかと言えば思う」と答えた生徒の割合は90.3%(県平均84.2%)。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に、2時間以上と答えた生徒の割合は86.0%(県平均40.4%)であり、ともに県平均を上回っている。	

(別紙)

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名	長崎県立諫早高等学校附属中学校	
生 徒 数	114名	
各 教 科 の 状 況		
国語	概 況 改善策	概況としては、平均正答率が90%と全国・県の正答率を大きく上回っている。今後の指導で注力する点としては、53.5%と最も正答率の低かった「情報の扱い方に関する事項」である。学習活動を通して、資料の中から必要な情報だけを選択する力、また、その情報を活用し表現する力等の育成に取り組んでいきたい。
数学	概 況 改善策	平均正答率は79%で、全国や県の正答率を大きく上回っている。数量や図形についての基本的内容はおおむね身に付いているが、方法や理由を数学的に説明する力を今後さらに伸ばすことができるよう改善を図りたい。また、データの活用「箱ひげ図」の読み取りに関する問題の正答率が41.2%と落ち込みがみられたので、復習する機会を設けるようにする。
理科	概 況 改善策	全体の平均正答率は70%で、全国・県の正答率を大きく上回っている。学習領域をみると、「エネルギー」を柱とする領域の正答率56.3%で、他の分野に比べて低い結果となった。観察・実験の方法を改善し、発展的内容も充実させて、さらに理解を深めるための指導に取り組んでいきたい。
質問紙調査の 状 況		普段ゲームや動画視聴をする時間は、全国・県平均に比べてかなり少ない傾向にあるが、4時間以上の生徒も数名いるので注視していきたい。また、休日2時間以上学習している生徒の割合は全国・県平均とも大きく上回っているが、平日は全国・県平均とも下回っているため、各教科担当者や担任、家庭と協力しながら改善を図ってきたい。